

はじめに

わが主、マルタを愛す

イエスさまとふれあいて



ジョージ・シンカー著

トマス浅川敏 訳

この本の目的は、単調で、骨が折れ、時にはいらいらする日々の家事を絶えず通して、あなたの意識の中にイエス様を、もっと鮮明にもたらそうとすることです。題名はこの本が語るイエス様から靈感として私にひらめいたもので、あなたが多くの家事にわずらわされている時、ひとりで繰り返すのにすばらしい言葉だと思えます。

最も骨が折れ、つつましく、時としては最も感謝されなく、その上、やがて分るように最も信徒らしい仕事のひとつの中に、神様ご臨在の行ないをもたらそうとするのがこの本の試みです。日常生活の最もありふれたことをイエス様に結びつけること、つまり、すべての中にイエス様を見、イエス様の中にすべてを見ることが試みです。

日ごとの生活のありふれたことを、イエス様に結びつけることによって、それらのことが、イエス様を思い出す連想作用になるでしょう。「ふれあい」のいくつかは、こじつけに思えてもさしつかえありません。イエス様こそ、すべてが導かれて行くべき目標だからです。

「ふれあい」のいくぶんかは詩篇やその他の個所から引用した見逃してはならないものはかりですが、大部分はイエス様の生涯から引用したものです。連想作用が引き起される聖書から引用したことは、適当な折に繰り返すことをお勧めしますが、目標とするものは、イエス様ご臨在の意識であることを常に覚えていただきたいのです。結びつけ方のおもしろさや、スリルに心のおもむくままにせず(このことは非常に大切です)、台所や、買い物之列や、または、どこにしようとも、いつもイエス様が、あなたと共におられることそのものに心を留めておかなければな

りません。「ふれあい」が、このようにして行なわれると、讃美や祈りのことはがそれを強め、イエス様の頃と今も同じく真実である - イエス様がマルタを愛された栄光ある事実 - を更らに現実のものにしてくれることでしょう。

※ ジョージ・スィンカー (1900-1986) : インド (現パキスタン) のハイデラバード生まれ。オクスフォード大学で学び、1924年に司祭按手を受け、インド・パキスタン・セイロン聖書協会の総主事を務めた後、1949年にナグプール教区主教となる。その後英国に戻り、1954年から1961年までダービー教区の補佐主教を、1962年から1972年までバーミンガム大聖堂で主席司祭を務めた

おすすめ

もう二十年近く前のことです。清里の教会で婦人信徒のための静想会が行なわれ、ナザレ修女会の千代修女が静想指導をして下さいましたが、その時紹介して下さいなのが、この本“Jesus Loved Martha”でした。私がねだったからでしょうか、千代修女はご自分が大事にしていらっしやったその本を私に下さいました。

その後、横浜教区の宣教部の仕事をしておりました折、一緒に働いていた遠藤徹兄と相談して、これを訳して婦人信徒の方々に読んでいただくということになりました。英語に強い遠藤兄が早速翻訳して下さい、1969年頃に騰写版刷りの小さい本になって、横浜教区内の諸教会に配布されました。しかし、この本がどれだけの婦人に読まれたかわかりません。残念なことについていつの間にか忘れ去られてしまったようです。

昨年の大齋節に、何か適当な読み物がないか探しておりましたら、ふと本棚の片隅にあった千代修女からいただいた“Jesus Loved Martha”が目にとまりました。遠藤兄の訳されたものもあるはずだと探しましたが見付かりません。それで平塚聖マリヤ教会のよく英語の出来る二人の婦人に少しずつ要約していただき、婦人信徒の大齋中の読みものにしました。

そんな時、長坂の浅川敏さんのことを思い出しました。浅川さんは農村の小さな教会で忠実な信仰生活をなさっている方で、英語にとっても堪能です。“Jesus Loved Martha”をコピーしてお送りしました。そしてお読みになったら、その訳したものを長坂の信徒の方々にも聞かせてあげて下さいと書き添えました。浅川さんは熱心に読まれ、その訳したものを整理されました。そして今年の6月頃、せっかく訳したのでなんとか一冊にして印刷してみたいと言って来られました。先の遠藤兄のものもどこの教会でも見当りませんし、ちょうどよい機会だと思いました。印刷の費用は浅川さんがご自分で工面なさるとのこと、感激いたしました。

みんなが、殊に婦人信徒の方々が浅川さんからこの本をいただき、毎日少しずつ読んで心の糧として下さいますように願っています。

平塚聖マリヤ教会
司祭 武藤六治

ふれあい -1 朝起きて

なぜ眠っているのか。誘惑に陥らないよう、起きて祈っていなさい。

ルカ 22:46

イエス様はどのようにしてでもおいでになり、あなたの目を覚まし、一日の初めのひと時を共に過すように招いて下さるのです。なぜでしょうか。イエス様のお立場からすれば、ご自分はマルタを愛し、交わりたいと願うからです。あなたにとってはまた始まるわずらわしい一日になることをイエス様はご存知であり、その一日がもたらす試練に立ち向う力と勇気と忍耐と平安をあなたに与えたいと思うからです。

朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた

マルコ 1:35

そうです。イエス様は祈られたのです。多分あなたがお祈りしなければと思うより早く祈られたのです。ですから起きて祈ることは神様の業です。こうしてイエス様は一日を神様の業をもって始めるよう命じ、あなたはいかに多く神様の業を今日行なっているかに驚くでしょう。それらの神様の業は、「主のいとよき生涯の聖なる歩みに従わせたまえ」という祈りを成就するでしょう。ですからマルタは家事を行なう中で、絶えず「キリストの似姿」となり、マルタを見るすべての者にキリストを映す鏡となるのです。

ふれあい -2 洗う行為と、洗いきよめること

イエスは「シロアムの池に行って洗いなさい」と言われた。そこで彼は行って洗った。

ヨハネ 9:7

イエス様は私達に洗いきよめるようお命じになります。それはイエス様にとって心きよめるサクラメントでした。私達は洗う行為をすべてこのようなサクラメントに変えることはできないでしょうか。繰り返し行なうことによって、私達もまた目を開き、イエス様を見ることができるようでしょう。

私を洗ってください、雪よりも白くなるように。

詩篇 51:9

あなたが洗うとき、この祈りを捧げて下さい。そうすれば、あなたは内外共にきよくなるでしょう。

肉と霊のあらゆる汚れから自分を清め、神を畏れ、完全に聖なる者となりましょう。

コリント II 7:1

洗いは、聖書の中では、霊と肉の二重の行ないだと常に考えられています。私達がそのように考える習慣を形成しようとするならば、洗うたびごとに意識しつつイエス様のみ前に来て罪を清め、赦しを得て再びおそばにいたることができるようになるのです。

最上の着物を出して来てこの子に着せ…はきものを足にはかせなさい
ルカ 15:22

神様の愛の中では、神様の子どもにとって、最もよいもの以外は何も充分とはいえません。イエス様はこのことを知っておられたので、身を誤るがしかし愛しい息子への父親の愛に、聖書の物語の中でふれています。イエス様は決してあきずに私達に賜物を下さいますが、私達がその下さったすべての賜物を喜ぶよりも与える者の喜びを味わうよう切望しておられるのです。

腰に帯をしめ…主人を待っている人のようにしなさい
ルカ 12:35~36

あなたが服を着る時、あなたの思いは今から始まる一日の上にはせるでしょう。どんなことが起こるか分かりません。あなたはそのことに対処する用意をしていなければなりません。聖パウロは「私を強くして下さい方によって、何事でもすることができると」奥義をわきまえて言いました (フィリピ 4:13)。もしあなたにその用意ができていたら、一つのこと必ずや起るでしょう - イエス様があなたのもとにおいでになるのです。イエス様はおいでになる約束をされました。「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところへ帰って来る」といったのですから(ヨハネ 14:18)。イエス様がおいでになるのに対し用意していなさい。「イエス様は小さな事柄の中に現われるのですから」。ですから一日中、主を求め続けて下さい。

ふれあい -4 髪をとかすこと、洗うこと(鏡に具体化され)

(マリヤは) 自分の髪の毛で、(イエス様の) 足をふいた
ヨハネ 12:3

イエス様は弟子達の足を洗われましたが、ご自分に対して行われる同じ働きは、婦人の手に委ねられました。そして神様のみ足を髪でふいてさしあげたことが婦人の髪の栄光であるのです。

あなたがたの頭の毛までもみな数えられている
マタイ 10:30

神様がそのように愛されるなら、だいにする価値があるのです。

わたしたちはみな…鏡のように主の栄光を映し出しながら…主と同じ姿に造りかえられていきます
コリント II 3:18

私達には鏡をじっとみつめる者の姿が鏡の中に見えます。私達は鏡なのです。しかし私達は何を映すでしょうか。常にイエス様と共に生きることによって私達はイエス様を映し出すのです。「主を仰ぎ見る人は光と輝いた (詩篇 34:6)」。私達を見る者は皆イエス様を見るように、私達がイエス様と共にいたことを人々も知るようになるでしょう (使徒行伝 4:13)。

ふれあい -5 火の用意をし、たきつけること

彼らは炭火を見る

ヨハネ 21:9

聖書の物語を読めばイエス様のほかには誰もその火をつけることはできなかったことに、気がつくでしょう。ですからイエス様は火の準備をし、たきつけたのです。そして、あなたが同じことをする時、それがどんなに卑しく、腹立たしく思えても、あなたは神様の業を行なっていることが分るのです。時々あなたは火つけの難しさを知り、それからイエス様が火のつけ方を知っておられ、あなたがお願いすれば力を貸して下さることを思い出すかも知れません。イエス様は火つけをご自分でなされたからです。

ふれあい -6 朝ごはんですよ！

イエスは彼らに言われた、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」

ヨハネ 21:12

イエス様が以前になされたことを行なうのが、あなたの日々の仕事であることを念頭において下さらない。あなたは再びイエス様に倣っているのです。欽定訳聖書には「来たりて食せよ」とありますが、dinner

(正餐)は朝、食べる食事ではないので改訳聖書は、この点で正しいのです。あなたの家族に喜んでもらえる呼びかけ、「朝ごはんですよ」がほとんどイエス様の言われた言葉通りでしょう。この祈りは毎朝、あなたの口を通してイエス様にしていただきましょう。

ふれあい -7 日々のつきあい

わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。…わたしはあなたがたを友と呼んだ

ヨハネ 15:15

あなたが、僕と友達になることによって、はじめて従って行ける、イエス様のもう一つのすばらしい手本があります。愛は車輪をまわす油のようなものです。友達どうし二人は、主人と僕よりはるかに多くのことができることが分るでしょう。しかし、それよりずっと大切なことは、あなたの友情が傷つき、淋しい心に口ではいい表わせないほどの喜びを与えるでしょう。このことは、あなたをすばらしく、予想もしなかった愛の奉仕の道を、ずっと導いてくれるでしょう。

ふれあい -8 掃除

彼女は…家中を掃除しないだろうか

ルカ 15:8

イエス様は掃除をどうして知ったのでしょうか。母親が掃除するのを見たに違いなく、きっと母を手伝ったに相違ありません。また、マルタが掃除するのを見たに違いありません。マルタを愛しておられたのですから。そして今イエス様は、あなたが掃除するのをよくご覧になっています。イエス様は、あなたをも愛して下さっているのです。イエス様は掃除についてお話しをして下さいました。ですから掃除については、すべてご存知のはずです。あなたがイエス様に掃除して差し上げれば、家がきれ

いになるばかりでなく、イエス様が家の中にあなたと共に住んで下さるようになるでしょう。

戻ってみると、空き家になっており、掃除をして、整えられていた。

マタイ 12:44

困ったことに汚れた霊は、家があいているのを知ったのです。家が掃除され、飾りつけてあることはよかったです、あいていることは致命的でした。あなたが家のちりを払い、掃除しながらイエス様に入って下さるようにお願いして下さい。- どんな悪霊の住む余地も残さずに家の隅々まで満たすよう - イエス様にお願いして下さい。あなたの客としてではなく、家とその中に住む人々の持主であり、主人としてイエス様に入ってください。 「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」(ヨシュア 24:15) ということ人を人に知らせることを決して恥ずかしく思わないように覚えて下さい。

ふれあい -9 床を敷く

あなたは彼(病人)の床をしきかえる

詩篇 41:4

聖書では床をしきくことについて、実際にふれているのは二箇所だけです。しかし、たとえそうであっても、第一番目に神様のみ業がここに再びあることを示唆しています。この文脈では病の床を敷くことをいっているのです。

起きなさい。自分で床を整えなさい

使徒行伝 9:34

第二番目には聖徒のすべてのうちで最も人間的であり、愛すべき聖ペテロによってリダのアイネアに与えられた命令です。聖ペテロは妻と義母と暮し、勿論命令が自分に度々与えられるのを聞いたのです。そこでマルタは家族に各自の床を敷くように言う時、イエス様の弟子の手本にならうことでしょう。パレスチナの床は私達の床より遥かに簡単なものでした。床は敷くのではなく、ただ丸めて片づけるだけです。従って次の聖句があるのです。

起き上がり、床を担いで家に帰りなさい

マルコ 2:11

起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい

ヨハネ 5:8

イエス様が床をとるように命令する時は、ある目的をもってお命じになるように思えます。私達の目的はもちろん安らかに伏し、休めるように一夜の休息を充分確保することです(詩篇 4:8)。しかしイエス様にとっ

ては、次の仕事を行なうための単なる必要な準備のように見えたのです。多分それで私達は床で休む時を、次の仕事についてイエス様にご相談する機会にしようと思えばできるのです。

人の子には枕する所もない

ルカ 9:58

床をあまり好きにならないで下さい。床はイエス様になかった物の一つです。

ふれあい -10 買い物

イエスは言った…「どこからパンを買って来てこの人々に食べさせようか」。これはピリポをためそうとして言われたのであって、ご自分ではしようとするをよくご承知であった

ヨハネ 6:5-6

買い物はいつも難しいことです。しかし昔も今も同じように、イエス様はあなたの買い物の難しさに対する答えをすべてご自分で知っておられます。イエス様にお尋ねすることは時間の空費ではありません。お尋ねしなければ、あなたは本当に必ず時間と精力を浪費するのです。イエス様はあなたを確かめるために問題を課し、あなたがイエス様にお伺いするのを待っておられるのかも知れません。イエス様が「どこからパンを買おうか」とおっしゃるのに注目しましょう。それはあなたの仕事であると共にイエス様の仕事であり、イエス様はその仕事をあなたと分か合いたいと思っておられるのです。

彼（ヨセフ）は亜麻布を買った

マルコ 15:46

食糧の買いものばかりでなく、衣類の買いものもあなたをイエス様に触れさせてくれます。これはイエス様の清められた体を包む布でした。イエス様の復活の最初の誰も気づかない証拠がその布であり、この布を見てヨハネが信じたのです（ヨハネ 20:8）。すべての布はヨセフが買った布で聖別されています。

ふれあい -11 買い物の列

女が群衆の中にまぎれこみ、うしろからみ衣にさわった

マルコ 5:25-27

イエス様ほどの列の中にもおいでになり、あなたもイエス様に触れて癒されることができます。あなたは列を好まないし、誰も好みません。しかし別の見方をすれば列は大変すばらしいのです。というのは、列にはマルタのような人がいっぱいおり、イエス様はそのマルタ達を愛しておられるのです。その理由だけであなたはイエス様が列の中にいらっしゃることを確認できるでしょう。イエス様から非常に愛されたマルタ達は、イエス様の愛を知らないのです。つなぎ役になるというなんとすばらしい機会があなたにあるのでしょうか。いうならば、あなたがイエス様の衣のへりとなり、他の人々があなたに触れると、イエス様と接触し、癒していただけるということです。

イエスは人々に組々に分かれてすわるようにいった。人々は百人ずつ或は五十人ずつ列をつくってすわった

マルコ 6:39-40

イエス様がお命じになったとすれば、列は結局そんなに悪いはずがありません。列の中の誰にもイエス様が祝福をより効果的に与えられるようにすべく命じて列をつくらせたのです。あなたが祝福を受けるよう望むなら、それは今もなおイエス様のみ心です。

ふれあい -12 買い物の持ち帰り

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう

マタイ 11:28

疲れたマルタは並んで買い物をした成果を家に持ち帰ります。休むためではなく、料理とさらに労することを予想して帰るのです。しかしマルタには仕事の最中でさえも休息があります。マルタは重荷を負い、疲れていようともイエス様のお招きを受けるでしょう。イエス様は買い物の列や店の中ではマルタと共におられ、今イエス様はマルタとご一緒に歩いて家にお帰りになられます。イエス様は彼女を家の中へ迎え入れ、イエス様の愛は絶えずマルタを満たし包むのです。彼女は帰り道、多分知らぬ間に教会のような静けさにひたり、またそうでなくても、イエス様に向かって心をあげ、安らぎを求めて近づくことができるのです。

互に重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです

ガラテヤ 6:2

たいていのマルタのような人達について、素晴らしいことの一つは、彼女達は自分自身の重荷はもちろん、他人の重荷をも常に背負う心構えでおり、これを誇らないことです。従ってキリストに似ることを少しも意識せずに、マルタは絶えずキリストの律法を全うしているのです。イエス様がマルタを愛したもうたのは不思議ではありません。

ふれあい -13 料理

炭火がおこしてあった。その上に魚がのせてあり、パンもあった。

ヨハネ 21:9

イエス様はただ火を起こせたばかりでなく、料理もおできになり、パンも作れました。ですから料理はもう一つの神様の業で、あなたはもう一度イエス様に倣っているのです。なんと多くの方法であなたはイエス様を手本として、その最もよい生涯の清められた歩みに倣っていることでしょうか！あなたはイエス様がマルタを愛する理由が分り始めたでしょうか。そしてマルタはイエス様を愛し始めているでしょうか。

天国はパン種のようなものである。女がそれを取って三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんで来る

マタイ 13:33

イエス様は料理の仕方にどんなに関心を持ったことでしょうか。また、天国の説明をなさる方法として料理を用いられたのはなんと立派なことでしょうか。そうです。イエス様は台所では全くくつろいでいらっしやいます。あなたの台所からイエス様を閉め出してはいけません。

ふれあい -14 食事の用意

イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。

ヨハネ 12:2

こうしてマルタは、イエス様に食事のお世話をする最も榮譽のある仕事につき、本当にマルタのような婦人達はすべてマルタに見習うのです。あなたが食事の世話をする時、イエス様を追い払うものがなければ、イエス様はベタニヤでの食事の時と全く同じように食卓についておられる情景を思い浮べて下さい。おお、マルタよ、ごらん下さい、そこにはイエス様を追い払うものはありません。

わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。

ルカ 22:27

人の子が、仕えられるためではなく仕えるために…来た

マタイ 20:28

あなたの仕事はますます神様に捧げたものとなります。あなたはイエス様に仕えているばかりでなく、イエス様ご自身もあなたのそばで、またあなたの中でお仕えなさっているのです。イエス様ご自身がマルタになり、あなたは家庭においてイエス様の身代わりになるのです。イエス様最愛のマルタよ、あなたのしている神様の業を、決して、決して非難してはなりません。あなたは、イエス様がおいでになってなさろうとする仕事そのものをしているのですから。

あなたはわたしに食卓を整えてくださる

詩篇 23:5

イエス様が私達のために働いて下さる、という考えを私達がただ一つの聖句から得るだけではありません。この美しい詩篇の中にその考えが再び現れます。食卓を賑わすおいしい食物をくださるのはイエス様であることをここで更らに示唆しています。イエス様がガリラヤ湖のほとりに友をお呼びになった時、魚とパンを自ら分け与えられたいきさつを、このことが私達の心に呼び起してくれます(ヨハネ 21:12)。この考えはあなたが時々食前に用いる「愛するお父様、私達があなたに頼る如くあなたに感謝する心を常に保たせて下さい」という美しい祈りを強調するのです。

ふれあい -15 食事

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。

マルコ 14:22~24

キリスト教会へ礼拝の最高の形式とイエス様との最も親密な結びつきを与えたのは正に食事だったのです。イエス様が毎回食事において認められた主人である限り、どの食事もそのような結びつきになり得るのです。すべてのパンやどのカップもいつも私達に惜しみなく差し出されているイエス様の生命を表わす選ばれたしるしとして、私達に対しては常にきよいものであるに違いありません。

一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かった

ルカ 24:30~31

どの食事でも、口に出しても出さなくても主のご臨在へ祈りをもって始めるべきです。イエス様に対し、また相互に親しい交わりを持つすばらしい機会だからです。私達の目が開かれずに主を認められるとは誰も思いません。

神の国で食事をする人は、何と幸いなことでしょう

ルカ 14:15

神の国が本当に私達の中にあるなら、毎回の食事に私達のひとりひとりが祝福されるでしょう。

焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。

ルカ 24:42~43

私達は家族の親しい交わりをこまごま分かち合い、毎回の食事に信仰の目をもって、イエス様にお会いすることは、私達にとって大変難しいことでしょうか。食事は喜びと安らぎのどんなに楽しいひと時となることでしょうか。たびたび私達は、私達のまん中にイエス様を認めるでしょう。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ 25:40) だからです。

人の子が来て、飲み食いする

ルカ 7:34

私達も皆同じようにします。私達はこの点で、イエス様の手本に見習っています。そうすることをいつも忘れないでいるなら、なんとすばらしいことでしょうか。

ふれあい -16 食べ物

もし私達が食べ物に口をきかせることができるなら、食べ物が神様ご臨在の行ないにどんなに私達の助けになることでしょうか。もちろんここには、私達の食べ物のごくありふれた幾つかの種類と、イエス様との関わりがあるのです。私達はその「関わりがある」と考える習慣をつけるなら、イエス様は言葉では言い表わせないほどの祝福をもって、私達の意識の中に、いかにしげく入って来ることでしょうか。

パン

わたしは命のパンである ヨハネ 6:48

彼はパンを取った マルコ 14:22

人はパンだけで生きるのではない ルカ 4:4

彼は五つのパンを取った ルカ 9:28

小麦粉

あなたを最良の麦に飽かせてくださる 詩篇 147:14

パンくず

小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます
マタイ 15:27

金持の食卓から落ちるパンくずで飢えをしのごうとして
ルカ 16:21

食物

わたしの肉はまことの食物 ヨハネ 6:55

わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行ない、そのみ業をなし遂げることである ヨハネ 4:34

魚

彼らは彼に焼いた魚の一きれをさしあげた ルカ 24:42

二ひきの魚もみんなにお分けになった マルコ 6:4

炭火がおこしてあって、その上に魚がのせてあった ヨハネ 21:9

卵

卵を求めるのに、さそりを与えただろうか ルカ 11:12

凝乳と蜂蜜

見よ、おとめがみごもって男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。…彼は凝乳と蜂蜜を食べ物とする。 イザヤ 7:14~15

彼の食物は…野蜜だった マタイ 3:4

乳

キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。わたしはあなたがたに乳を飲ませ、固い食物は与えませんでした。
コリント I 3:1~2

実

あなたがたが実を豊かに結ぶならば、それによってわたしの父は
栄光をお受けになるであろう ヨハネ 15:8

わたしは実を求めて来た ルカ 13:7

御霊の実は愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制で
ある ガラテヤ 5:22-23

塩

塩はよいものである マルコ 9:50

あなたがたは地の塩である マタイ 5:13

からし

天国は一粒のからし種のようなものである マタイ 13:31

ぶどう酒

人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに結びつけ、
イエスの口もとにさし出した ヨハネ 19:29

水

だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい
ヨハネ 7:37

もしあなたが、神の賜物を知っており…あなたの方からその人に頼み、
その人はあなたに生きた水を与えたことであろう

ヨハネ 4:10

かわいている者は、いのちの水の泉から価なしに飲ませよう

ヨハネの黙示録 21:6

ふれあい -17 あとかたづけ

少しでも無駄にならないように、パンくずのあまりを集めなさい

ヨハネ 6:12

また、注意深い主婦は食事の残り物を集めて、次の食事に用いようとする時、愛に満ちた主に従っているのです。人間の巨大な家族を思いやり、養い、世話をし、愛してくださる天のお父様に、小さなマルタはいかに似ていることでしょうか。家族が皆、家で母を眺めるにつけ、神様の新たな、日ごとのみ姿を心に描くのは全く無理なからぬことです。

ふれあい -18 食器洗い

杯と皿の外側はきよめるが、内側は貧欲と放縦で満ちている

マタイ 23:25~26

イエス様のこの聖句は笑いを起こさせたに違いないと思います。というのは、茶器を洗う時、一体誰が外側をきれいにして、茶葉を中に残しておくのでしょうか。偽善者はすべての人の中で衰れに思うほどこっけいこの上ないのです。あなたが洗いものをしていてイエス様のしゃれを思い浮べてほほえむなら、物質的生活ばかりでなく、霊的生活においても「内

側の清潔がまず大切である」ことを覚えて下さい。あなたが茶碗や皿を完全に洗う時「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください」(詩篇 51:12)とお祈りして下さい。

見よ、国々は革袋からこぼれる一滴のしずく

イザヤ 40:15

台所であなたがくずを流し台のわきの容器に入れる時、イエス様はあなたのそばにおいでになり、あなたを愛して下さる永遠の神様であり、この神様に比べると、この世の国々は皆、あなたの容器の中にしたたり落ちるしずくより小さなものであることを常に覚えて下さい。このことがあなたの大きいなる、優しい、愛する方の栄光であり、威光であり、力であるのです。

ふれあい -19 衣服づくり

下着には縫い目がなく、上の方から全部一つに織ったものであった

ヨハネ 19:23

それは聖母マリヤが息子に作ってあげたに違いないと思われる衣服でした。あなたが子どもの衣服を作る時は、聖母マリヤの手本に従っているのです。すべての母は聖母マリヤのうちにあって、永遠に祝福されるのですから。あなたがイエス様の子どもにひとりに衣服を作っているのですから、あなたは、また、イエス様に衣服を作って差し上げているのです。

なぜ着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているのか、考えてみるがよい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。しかし、神は野の草でさえ、このように装って下さるのなら…あなたがたに、それ以上よくして下さらないはずがあるうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。だから思いわずらうな。…あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

マタイ 6:28~33

そうです。しかしマルタは子ども達の衣服のことで、きつと思わずらい、心配しなければなりません。衣服がどんなに早くすり切れて取り換えなければならないか、全く分かりません。多分分らないでしょう。しかしあなたの天のお父様は知っておられます。イエス様は、それは信仰の問題であり、あなたの天のお父様への信頼の問題であるとおっしゃり、このことを試すために聖書全体の中で最もすばらしい約束の一つをマルタに与えます。マルタがイエス様を信頼し、自分自身と家族のために先のこと(神さまのこと)を先に行なおうとするならば、これらすべてのものはマルタに増し加えられるのです。これは驚くべき約束ですが本当なのです。マルタは未だ子ども達の衣服を作らなければならないでしょうが、気苦労や心配は消え失せてしまい、子ども達はいつも衣服を与えられているでしょう。

ふれあい -20 衣服のつくろい

だれも真新しい布きれを、古い着物に縫いつけはしない。そうすれば、新しいつぎは古い着物を引き破り、そして、破れがもっとひどくなる

マルコ 2:12

あなたが神様ご臨在の行ないを日ごとに学ぶにつれ、新しい真理が現われ、イエス様があなたに与えようと望んでおられる新しい顕示にあなたが出会い、それを取り入れるためには、あなたは習慣や考え方を変える必要があることをイエス様は知っておられるのです。私達が生き、イエス様のうちにあつて成長しようとするなら、霊的に柔軟性を持たなければなりません。私達は新しい道を歩み、新しい習慣をつくり、イエス様が私達に教える時を待っておられる新しい事柄に私達が適合するよう、私達自身をつくり上げるべく、いつもその心構えでいなければなりません。もし私達が元通り、あい変らずの自己に留って満足しているなら、新しい真理に打ち砕かれるのではないのでしょうか。しかし、実際には、私達が新しい顕示と新しい真理を担えることをイエス様がお認めになるまでは、私達にそれを決してお任せにはならないのです。

針

富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい

マタイ 19:24

私達が金持ちでないことはなんというお恵みでしょう。神の国はずっと楽しいのです。

ふれあい -21 衣服の洗濯

彼らは大きな艱難をとってきた入たちであつて、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである

ヨハネ黙示録 7:14~15

聖徒達は自分の衣服を洗濯します。しかし彼らが衣服を洗濯するのは、イエス様の真の生命においてするのです。聖徒達が衣服をまとっているのはイエス様の義によるのであつて、彼ら自身の義によるものではありません。私達のうちのイエス様の生命により清められたこの義の衣をまとつう時、私達は絶えず、昼も夜も、イエス様のみ前にいるのです。その時、私達の労苦は全てイエス様への奉仕となり、本当の喜びになるでしょう。

わたしたちは皆、汚れた者となり、正しい業もすべて汚れた着物のようになった。

イザヤ 64:5

私達の最も良いものや最も価値のあるものでさえも神様の栄光には遥かに及ばず、その完成のために神様は私達をお招きになさっているのです(ロマ 3:23)。しかしあなたが洗濯している汚れた衣服は、それ自体ではきれいになれないと同じように、私達も自から義を生み出すことはできません。ですから私達自身の力で義を得ようと骨折るのをやめ、私達の義であるイエス様をまといましよう。というのも、私達がイエス様に身をつつめば、神様の真のみ座の前に恥じることなく立ち、受け入れられるでしょう。積み重ねられた汚れた衣服が、あなたに洗濯してもら

うのを待っているのを見る時、その汚れた衣服には自から洗濯をする力のないことによって、イエス様だけが、あなたを洗い清めることができになることを思い起こして下さい。イエス様はあなたの義の白い衣であり、あなたに着てもらおうようにと、いつもご自分を提供しておられるのです。

ふれあい -22 アイロンかけ

見よ、わたしはすべてのものを新たにする

ヨハネ黙示録 21:5

あなたがアイロンかけを始めると、家の者達がハンカチやリボンや目にとまるどんな半端物でも持ってまわりに集まり、アイロンをかけたがるのに気がついたことがありますか。マルタが自発的に手伝ってくれる人をいともたやすく見つけ得るのは、彼女の仕事のうちのアイロンかけです。なぜでしょう。アイロンかけの効果はきっと、物を新鮮に、しかも新しく見えるようにすることだからです。私達は皆、しわがよったり、しわくちゃになった衣服が、あたかも魔法のように新しく、滑らかになり、つやが出るのを見るのが大好きです。このことは神様が常に行なっていることであり、私達は神様が私達をアイロンにかけて、神様の手本や新しさへと方向づけて下さるよう喜んで望むなら、そのようにして下さるのです。神様もそうするのを楽しまれると私は信じます。というのは、神様は、神様の働きをつぶさに見るように、私達を招いて下さるからです。

ふれあい -23 くつ

わたしのあとから来る人は…わたしはその靴をとるにもたらず

マタイ 3:11

…私はその靴ひもを解く値うちもない

ルカ 3:26

そういう訳でイエス様は私達と同じように靴をはいていたのです。イエス様に靴を磨いてさしあげるとどのような競走が弟子達の間にあったでしょうか。勿論イエス様は度々ご自分の靴を磨き、靴磨きをもう一つの神様の業にしました。靴磨きは家庭の務めの中で、一層敬遠されるものの一つであり、しかもそれをイエス様にしてさしあげたなら、いかに感動し、尊く思えたことでしょうか。しかし、私達がそれをイエス様ご自身のために行なうなら、今なお私達にはそうすることができるのです。というのは、イエス様ご自身わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである(マタイ 25:40)と約束しているからです。

足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである

出エジプト記 3:5

そこは神様がイエス様のところへおいでになったので聖なる地なのです。しかしイエス様はあなたと共に一日中歩き、あなたの通り道はすべて聖なる地なのです。あなたの台所の床は聖なる地であり、あなたの家は皆きよいのです。私達は愛する者が立つ地を拝することを時々口にす

ることがあります。イエス様のきよきみ足はパレスチナの道々を踏みしめたばかりでなく、私達の最愛の方はそのご臨在によって全地をきよくなさるのです。

ふれあい -24 おかね

デナリを見せなさい

ルカ 20:24

イエス様は大して金の必要はなかったし、また金の危険性を認めていたけれども、それにもかかわらず、小銭は私達の手から忽ち飛び出すので、イエス様が或る時金を見たいといわれたのを思い出すのはよいことです。イエス様はご自分のきよきみ手に金を握り、神と国家に対する私達の務めについて教えるのに用いられました。小銭でさえも神様に対する私達の思いを呼び起し、私達が神様に負うすべてのものを深く想いをめぐらす機会を私達に与えてくれるでしょう。神様の下にあって私達の必要な物を満たすのに力のかす国家に対して、私達が感謝の念をもって祈りを捧げるようにこのことが私達を導いてくれるでしょう。

金銀はわたしには無い。しかしわたしにあるものをあげよう

使徒行伝 3:6

小銭はときおり銀貨や金貨より目立ちます。しかし私達がまず神の国と義を本当に求めているなら悩むことはありません。私達の天のお父様は、私達が何を必要としているかご存知であり、これらのものはすべて私達に与えられることを約束して下さいました(マタイ 6:32~33)。金の力

で神様のためにできることより、金がなくてももっと優れたことが神様のためにできることを神様の僕であり、マルタが他の一女性からいわれたことを思い出します。そのことが本当であることを今私は経験によって分るのです。私達はいかに貧しくても、パウロのように、今もなお「多くの人を富ませることができます」(コリントII 6:10)。

富める者が神の国へ入るのは、なんとむずかしいことであるう

マルコ 10:24

「金がなければ何もできない」という人々がいます。それは、実は本当ではありません。私は今までに最もすばらしい二つのことを、金を全然使わずに行ないました。私はイエス様に心を捧げ、そして愛したのです。もちろん私達は金を必要とし、また天のお父様は必要なものはすべて知っておられます。しかし私達が神様の摂理に頼れるのは、先のことを先にすることによって初めてできるのです。神様なしには何事もできないという事実に頼ることは一層思慮深いことであると共に、さらに真実味もあるのです。この逆の「神は何でもできる」(マルコ 10:27)も正に真実です。

自分のために地上に宝をたくわえてはならない。…むしろ天に宝をたくわえなさい。…あなたの宝のある所には心もあるからである

マタイ 6:19~21

時間が私達のものではないのと同じく、お金も私達のものではありません。神様のご用に使うことが私達にとっては務めなのです。このことを認めるよい方法は神様のものとして、たとえ十分の一であってもそれを

取って置き、残り全部を私達が使うのに神様の恵みをお願いすることで。私達がこのようにしようとするなら、溢れるほど大変豊かな恵みが約束されるのです(マラキ 3:10)。お金はこの世の中で最もはかないものの一つですが、神様のお導きのもとに使われると、来たるべき世に永遠の富を私達に蓄えてくれるでしょう。このことは単なる信心ではなく、きよめられた常識です。

ふれあい -25 時間

あなたの力はあなたの手と共に続くであろう 申命記 33:25

マルタを最も悩ますものの一つは時間です。時間は決して充分あるとは思えません。しかし神様ご臨在の行ないによって、その悩みは消えて行きます。イエス様がマルタと共においでになる時、彼女は自分が一層効果的に、一層調子よく、また敏捷に働いていることが分るのです。神様が手をかして下さる時、彼女には半分の時間で二倍の仕事ができます。それは本当に時間の問題ではなく、助けによって仕事が仕上げられるということであり、パウロばかりでなく、マルタも強くして下さるかた(イエス様)によって何事でもすることができるのです(フィリピ 4:13)。

わたしの時¹はあなたのみ手にあります 詩篇 31:15

結局、時間は本当にあなたのもではありません。それは、神様が神様のみ業と讃美で満たすようにあなたに下さる時間なのです。ですからあなたが神様に寄り頼み、神様の計画によって働くなら神様は、きっとあなたに充分時間を下さるでしょう。神様に頼らず、私達自身の計画に従って働こうとする時にのみ、時間がこのような問題になるのです。私達が神様と金に兼ね仕えることができない一つの理由は、その両方に対しては十分な時間がないからです。私達には必要以上の時間があるようには決して思えないことに少なくとも感謝しましょう。神様の時間をつぶすことは、すべての活動を一番骨抜きにするものの一つです。

人の子が栄光を受ける時がきた ヨハネ 12:23

その時から毎時間が人の子が栄光を受けるべき時間であり、イエス様を讃えることは、すべての神の子の義務と特惠です。イエス様のご臨在がいずれもきよくして下さるように、すべての時間をもきよくなさるのです。イエス様への思いと祈りや讃美や感謝を捧げることばが、あなたの口にのぼらず、またあなたの心の中にもない状態で目を覚ましている時間を過してはなりません。

¹ 日本語訳では「命」等となっているが、ヘブライ語の原文およびギリシア語訳では「時間」を意味する語が使われている。

見よ、わたしの戸の外に立って、たたいている

黙示録 3:10

「まあ、いやねえ、だれかが戸口にいるわ」。しかしイエス様は私達の日常生活のごく当り前の事柄を通しておいでになるように、とぎれとぎれに、また時としてはもっとじかに、おいでになることを忘れてはなりません。イエス様によって遣わされた者として訪れるどのお客様をも思い浮べてみて下さい。イエス様は目的なしには何もなさらないのです。毎日のはじめにイエス様のご用に用いられるように覚えてお願いするのなら、イエス様は一日中ずっとお役に立つ機会を与えて下さるでしょう。玄関を開けに行きながらノックするお客様に対してするお祈りは、あなたを正常な気持ちにし、その機会を失わないようにしてくれるでしょう。さらに、あなたが知らず知らずの中に、自からみ使たちをもてなしていることを多分知るでしょう(ヘブライ 13:2)。

わたしが旅人であったときに宿を貸してくれました

マタイ 25:35

み使たちばかりでなく、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわちわたしにしたのである」でもあるのです。

ふれあい -28 動物たち

あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる

マタイ 6:26

私達が鳥にパンくずをやり、犬や猫や兎に餌をやる時はいつも、イエス様がいわれたように私達は天のお父様がなされたのと同じことをしているのだと思うと、うれしくなります。私達にとってイエス様のようになることは、なんと極めてすなおな、すばらしいことでしょう。勿論これらすべてこまごました日常の神様の業を行なう奥義は、イエス様が動物たちにしておやりになった、愛をもった動機で動物たちにしてやることです。イエス様にとって、それらの行ないは、「…小さな、名もなく、心にとめない親切と愛のみ業」なのです。

その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。

マタイ 10:29

このことは、天のお父様が天地万物に対してお感じになる、全面的な、すべてにわたる、心の温かさばかりでなく、創造物の一つ一つに対する直接的な、個々の、更に目的をもった愛でもあるのです。天のお父様が、地に舞い降りるどの雀をも、つぶさにごらんになるとすれば、あなたの日ごとの活動のどの細部を通して、どんなに深く、優しい愛であなたを見守っていて下さることでしょう。

主がお入り用なのです

マルコ 11:3

ロバをお入り用なら、きっと私をお入り用です。

子どもたちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない。主よ、お言葉どおりです。でも小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます

マタイ 15:26～27

これはしばしばイエス様の難しい言葉の内の一つとされています。しかし、難しいのは主として私達が想像力に欠けているからだと思います。まず、<犬 (dogs)>と訳されている語は<子犬 (puppies)>と訳されるべきです²。全体としては、どちらかといえばことわざ風のいいまわしであるかも知れません。答えを促そうとして、きっとイエス様が優しいほほえみを浮かべておっしゃったのでしょう。

さもなければ、その女は自信をもって、あえて答えようとはしなかったでしょう。さらに、イエス様が彼女の立派な答えを受けた喜びは聖句の中に明らかです。福音書の中でペット（愛玩動物）に触れているのは、この時だけだと思いますが、全体の要旨は少なくとも私には、イエス様はナザレの家でご自分のペットを飼っておられたことを物語っていると思えます。筋全体は、イエス様のうわべだけの否定に対して私達が信仰に満ち、自信をもって答えるようにとの励ましで溢れています。

² (編註) ユダヤ人にとって犬は「汚れた動物」であったので、家で飼うことはなかった。この箇所、イエスが使っている<子犬(kynarion)>は、家で飼う犬を指して使われていた言葉であるから、このたとえが異邦人の生活を前提にしたものであることは確かである。

ペットへの私達の自然な愛に関連して、イエス様ご自身が、ひなを巣抱く雌鶏（めんどり）になぞらえ(ルカ 13:34)、ご自分の大いなるさきがけから神の小羊といわれ(ヨハネ 1:29)、しかもご自分の聖霊が度々鳩になぞらえられるのを知って嬉しくなるのです(ヨハネ 1:32)。

これらの、また実際にすべての動物たちは、神様ご臨在の働きに当って多分私達の助けになってくれるでしょう。

ふれあい -29 読書

彼（イエス）は朗読しようとして立たれた

ルカ 4:28

マルタには読書の余裕は殆んどありませんでした。しかし、読書には誰よりも一番忙しいイエス様が時間をみつけたのです。ここではイエス様の人前においての朗読ばかりでなく、イエス様の全生涯を通して私達はイエス様がいかに深く学び、聖書に通じておられたかが分ります。イエス様が人に教えておられた時、試練に会われた時、死の間際において、聖書の知識がどれほどご自分の助けになったかを私達が自覚し、「朗読する人は…幸いである」(黙示録 1:3)と特別の祝福が約束されているこのような読書を怠るなら、私達は愚かといわなければなりません。

読んでいることがおわかりですか

使徒行伝 8:30

読書はよいことですが、私達は直接に、あるいは本を通し、またはさらに徹底した指導をして下さるようにイエス様がお遣わしになる人を通し、読書を教え導いて下さる聖霊を必要とするのです。読書はすべて、

私達の全活動と全く同様に目的を持つべきです。気分転換がしばしば読書の目的になるでしょうが、もっと多くの場合、私達の勉強、しかも神様に関することについての勉強であると思います。神様のみことばを勉強する時の手助けとなるものや、註釈を与えてくれるものを軽んじてはなりません。「昼も夜もそのおきてを思い」ましょう(ヨシュア 1:8, 詩篇 1:2)。

ふれあい -30 手紙を書くこと

イエスは身をかがめて、…地面に何か書いておられた

ヨハネ 8:6

このことはイエス様が字を書けた唯一の証拠です。しかし、このこと以上に、つまりイエス様のお書きになったことは、物語の中で分るように、目的を持ち、愛に満ち、効果的であったことを私達に教えてくれます。

ですから書きとめなさい

黙示録 1:19

従って私達の書き物も目的を持ち、効果的でなければなりません。私達は書く時、イエス様を手本とするばかりでなく、またイエス様の指図に従っているのです。ここでいう指図は明かに手紙を書くことに対するものであり、手紙書きを通して行なわれる大切な働きへの招きであるのです。しかし、それは神様の働きですから、イエス様のお導きなしに決して行なおうとしてはなりません。私達はすべての手紙を書くのに先立って、「神様、私のペンを支えて下さい」の祈りをすべきであり、手紙を

受け取る者への祈りや、その手紙へ神様の祝福をいただく祈りは手紙を書き終えた後、いつも捧げるべきです。

彼（ザカリヤ）は書板を持って来させて書いた ルカ 1:63

私達はザカリヤのように、信仰が足りないためにおしになる時がままあります。私達は神様への証しのことばや、慰めないしは確証のことばや、義や、裁きのことばを述べる機会を失います。なお私達には、また、書き板があり、口に出していうほどの信仰や勇気のないことばを、いつも、すぐ書けるのはありがたいことです。どの手紙も神様の栄光への証しとし、イエス様におけると同じく、愛においても真実を語りましょう。

キリスト・イエスの僕たち、パウロとテモテ フィリピ 1:1

私達は住所・氏名・職業・身分などを書くレターヘッドの下に、時折、学位・肩書き・地位などを書きます。古今、最もすばらしく、最も効果的な手紙の書き手であるパウロは、自分の地位をキリストの使徒、身分をキリストの僕として名乗りました。私達は現実に、レターヘッドに同じように書く訳にはいきませんが、私達が書くどの手紙にも私達の身分・地位はパウロのそれと全く同じで、イエス様の僕であり、使徒であることを少なくとも覚えましょう。

(＜僕＞と訳されているギリシャ語はローマの家庭で＜奴隸＞の意味で使われた言葉です。＜使徒＞は文字通りには＜遣わされた者＞、つまり伝道者の意味で、どの信徒も家や国の内外を問わず伝道者たるべく特恵を与えられ、また伝道者であるべきです。)

子たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、イエスの名によってあなたがたの罪が赦されているからである。父たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが、初めから存在なさる方を知っているからである。若者たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからである。子供たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが御父を知っているからである。父たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが、初めから存在なさる方を知っているからである。若者たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが強く、神の言葉があなたがたの内にいつもあり、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからである。

第1ヨハネ 2:12~14

私達が書くどの手紙についても、このようなことがいえるでしょうか。私達がどの手紙を書くのにも理由や目的があるでしょうか。そして目的を成しとげる度胸があるでしょうか。手紙書きの務めにおいては、み言葉と sacramentのご用や、いやしと教えのご用におけると同じように、目的は神様の栄光とイエス様のうちにある真理の証しをたてることです。イエス様の愛と道と救いを知らせることです。このことが、私達の手紙を書く理由ではないでしょうか。

ふれあい -31 家庭の中の病い

娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっかりなおって達者でいなさい

マルコ 5:34

マルタは病気になってはいられないし、彼女が病気になるのは、きっと、主のみこころではないのです。主のみこころでないことは決して起る必要はないでしょう。しかし私達は本当に信じますか。イエス様ご自身マルタに「あなたはこれを信じるか」とたずね、イエス様は、生涯を通して彼女と聖ペテロだけができた告白を彼女から得たのです(ヨハネ 11:25~27)。あなたを健康で平安に保っていてくれるのは、イエス様におく、絶対的な信頼なのです。その信頼は聖書の物語の中で婦人が群集の中でイエス様の着物のへりに触ったと同じく、絶えずイエス様にふれることによって得られ、強められるでしょう。神様ご臨在の行ないは、病気に対し全く最高の解毒剤です。

主よ、ただ今、あなたが愛しておられる者が病気をしています

ヨハネ 11:12

しかし、マルタは主への信頼によって病気にかからないように守られる、と私は信じますが、家庭においては未だ未だ病気がおこるでしょう。マルタが自分の兄弟の病気の際にイエス様を呼びに人をやった時のことばより美しい信仰の行ないがあるでしょうか。

彼（イエス）は彼女の手にはさわられると熱がひいた

マタイ 8:15

イエス様の優しい愛は、ほんのささいな病いにさえも関わり、病いはどんなに軽くてもイエス様に伝える必要のないものは一つもありません。古い聖歌に「主ふれたまわば、今なおいにしえの力現わる」は、私達の多くの者が思うより多くの真実を物語っています。

起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい

ヨハネ 5:8

もっと重い病気、特に私達が長年或る程度運命としてあきらめて来た慢性病も、またイエス様のみ力に従うのです。イエス様におく信頼の働く奇跡のないやしは現代においても数多くあるのです。私達が思い切って新たに信仰を強めさえすれば、イエス様のいやしのかは殆んど限りがないでしょう。聖書の物語の中のひとは、38年間病弱であったし、現在でも同じ例があります。イエス様が病気をご自分の創造的な目的に用いる場合が確かにあるけれども、イエス様が家庭においでになる時は決して望みを失うには及びません。その時、イエス様のみ恵みは私達には充分です。というのは、イエス様の力は私達の弱さの中で完きものにされているからです(コリント 12:9)。私達が苦しみのご用に召され、優れた聖徒の群に加わる特惠を与えられるのは、この時です。

彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた

マタイ 8:27

どんな場合でも、私達は決してひとりで苦しむ必要はありません。イエス様は私達から病いを取り去って下さるか、または共に病いを負って下さるか、いずれにしても、どの病室にもおいでになり、み前には、満ちあふれる喜びがあるのです(詩篇 16:11)。イエス様が私達の病いを共に負って下されば、苦しみを用的み業 - 病いと苦しみが、すべての世の中でイエス様の栄光のために、最も創造的な手立てに変えられること - を私達に教えて下さるでしょう。このような苦しみこそ聖徒を成す要素であり、「最も苦しむ者が最も多くを与える者」なのです。

ふれあい -32 明りをつける

主よ、あなたはわたしの灯（ともしび）を輝かし、神よ、あなたはわたしの闇を照らしてください。

詩篇 18:29

私達が明りをつける時は、いつも神様の業を行なっているのだと思うと、おそらく妙な気がするでしょうが、本当に神様の業です。光りの創造は、この世が生まれて実に初めての神様の働きでした。神様は「光あれ」といわれたからです(創世記 1:3)。私達は明りをつける時は、いつもこのことを感謝の気持ちをもって思い起こす習慣を実践によって、身につけることができ、従って神様のご臨在を自覚できるのです。

わたしは世の光である

ヨハネ 8:12

主はわたしの光

詩篇 27:1

神は光である

ヨハネ 1:15

私達が光の中に生きることが神様のうちに生きることである事実を自覚することによって、このよい習慣を広めることができます。神様は光だからです。本当に、私達は神様から逃れることはできません。光である神様から、すべての光が出て来るからです。ですから、「われわれは神のうちに生き、動き、存在している」(使徒行伝 17:28)のです。

あなたがたは世の光である。…また、あかりをつけて、それを柵の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照らさせるのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

マタイ 5:14~16

神様が光であるだけでなく、私達自身も、神様を映す限りこの世の光です。輝くことを恐れたり、恥らってはなりません。光り輝く信徒こそイエス様のあり得べき最も立派な証人です。しかし私達は主の光を映す時だけ輝けるのです。私達は主を続けて仰ぎ見る時のみ光り輝けるのです(詩篇 34:5)。

ふれあい -33 一日の仕事を終えて

終わりに…すべて愛すべきこと…を心に留めなさい。…そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

フィリピ 4:8~9

マルタの仕事はなかなか終わりません。でも夕食の洗いものがすみ、子ども達は床につき、雑用はすべてすまし、就寝前、しばらく腰をおろせるひと時が来るのです。その時はマルタが明日を思いわずらったり、過ぎ行く一日を悔やまないようにしてあげてください。彼女の心を、うれしい、美しいこと - 常に数多くある神様に感謝できること - に向けてあげましょう。しばらく、静かに腰をおろし、一夜の休息のために心をしずめさせてください。イエス様がマルタに抱いて下さる愛について彼女に、ゆっくり考えさせてあげましょう。この世が与えることも、取り去ることもできない、人知を超えた平安が次第に、知らず知らず彼女を包むでしょう。一日は過ぎました - 忘れなさい。明日は未だです - 明日を思っただけはいけません。マルタはようやく、大いなる方と一緒にになりました。イエス様に思いを馳せてください。イエス様の大いなる愛が、あなたを充たし、包むにまかせなさい、その愛に包まれてお休みなさい、夜があけるまで。

ふれあい -最終- そうして床へ

＜イエスは＞上着を脱いだ

ヨハネ 13:4

こうしてマルタは数多くの神様の業の最後を行ないます。日々の生活においてイエス様の最も聖なる生活を手本として、マルタほど厳密に従った者は誰もありません。あなたはすべての仕事の中で、いかに忠実に、キリストに倣っていることでしょう。イエス様がマルタを愛されたのは当然です。

平和のうちに身を横たえ、わたしは眠ります

詩篇 4:9

人のため、そして神様がよしとされるなら、神様の栄光のため、仕事がすべてつつがなく成しとげられた安らぎをもって、マルタは神様の許しと受け入れを信じてひざまずき、過ぎ行く一日を神様に感謝し、捧げるでしょう。そして神様の平安のうちに床につき、彼女にふさわしい眠りに入るのです。

主は愛する者に眠りをお与えになる

詩篇 127:2

イエス様の愛したもうマルタよ
おやすみなさい。神様がともにいますように。

訳者より

昨年春、平塚聖マリヤ教会 武藤六治司祭様から George Sinker 著 Jesus Loved Martha のコピーが届き、翻訳して私の所属する長坂聖マリヤ教会の大斎節に読んでもらうようにしたらどうか、と書き添えてありましたので、期間中一部を訳して用いていただきましたが、私自身の聖書勉強のよい機会となったので、勤めのかたわら容易なことではないとも思いましたが、全文を翻訳することにしました。

聖書に使われている用語や表現から訳語が逸脱しないように、また著者の意図に沿って訳すように心掛けました。しかし尚、不備な点をご教示下さいますようお願いいたします。翻訳に当たって、中部教区 植松従爾主教様、武藤六治司祭様、そして実兄の丸茂照義の指導助言をいただきましたことを感謝します。

なお、本文中、聖書からの引用文は原文では文語体で書かれていますが、私達が現在使用している聖書は口語体ですから、それに従いました。また引用文の後に続く本文中の用語が異なる場合や、彼、彼女、それ、など代名詞で分りにくいと思われるものには、その下に（ ）を入れて必要な語を補って理解し易く配慮しました。

この本をお読み下さる方がマルタを一層よく理解し、信仰を深めるのに多少なりともお役に立つなら幸せに思います。